

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援（高知大学さきがけ志金の募集）について

本学では、コロナ禍で大きな影響を受けている学生を支援するため、6月5日に学長メッセージを発信し、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援（高知大学さきがけ志金の募集）」のため、多くの皆様方にご協力をお願いしてまいりましたところ、早々に多数のお申し出を頂きました。皆様方からの温かいお気持ちとご支援に、心から御礼申し上げます。

引き続き、学生たちが本学で学び続けることができるよう、大学としても最大限の支援を行ってまいります。今後とも高知大学への温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

[令和2年11月20日 募金趣意書](#)

[令和2年6月5日 学長メッセージ](#)

寄附の申込み

本学では、新型コロナウイルス対策を含んだ幅広い学生支援のために「高知大学さきがけ志金」を活用して支援を継続的にを行います。

※所得控除の対象です。



[↑こちらをご覧ください](#)

また、「高知大学修学支援基金」では、経済的な理由で修学が困難な学生等に対し、奨学金等の支援を行います。

※所得控除または税額控除の対象です。



[↑こちらをご覧ください](#)

～学生の声～

○新型コロナウイルスに関する高知大生向けアンケート調査（令和2年5月7日～5月14日実施、回答者数345名）

（作成・実施：高知大学地域協働学部4回生/協力：地域協働学部教員）集計結果報告より

【総括より抜粋】

- ・約4割の学生が経済的に困っている。
- ・アルバイトを解雇された学生は全員経済的に困っている。
- ・アルバイト収入が5万円以上減った学生が約2割になる。
- ・「食事に困っている人を対象にした物資の現物支給などの支援があれば受けたいか」との質問に「はい」と答えた学生が全体の約7割。

【自由記述より抜粋】

- ・食費に今まで通り割けない。
- ・光熱費や、交際費は減らせるだけ減らしたが、これ以上減らせない。もう、食費を削らざるを得ない。
- ・収入がまったく無くなり家賃に貯金をあてている為、食費を削っている。

学生を対象とする主な経済支援について

- ・高知大学緊急学生支援金制度の実施
- ・学生を対象とする食料支援の実施
- ・「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』事業
- ・新型コロナウイルス感染症により家計急変した場合の授業料免除（追加申請）
- ・令和2年度第1学期分授業料納付期限及び口座振替日の延期
- ・令和2年度第2学期分授業料納付期限及び口座振替日の延期
- ・令和2年度新入生全員に生協利用券の配布



新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援（高知大学さきがけ志金の募集）について

令和2年6月5日

各 位

国立大学法人高知大学長
櫻井 克年新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援
（高知大学さきがけ志金の募集）について

平素より、本学の活動に対しまして格別なるご支援やご助言を賜り誠にありがとうございます。

皆様方もご存じの通り、我が国を含めた世界各地で新型コロナウイルス感染症が拡大しております。本学でも2月より「危機管理本部」で感染防止対策に着手すると共に、さらに3月23日には「危機対策本部」を設置し、学生や教職員の安全対策、及び教育、研究体制に対する万全な対応を進めているところでございます。

一方で、感染症の拡大防止のために、本学学生にはオンライン学習を中心として、自宅での自粛生活をお願いしており、大変窮屈な生活を強いている状況です。さらに一部の学生においては、保護者の方の経済的な困窮度が増し、加えてアルバイトを継続することが事実上できなくなるなど、経済的にもかなり追い込まれている現状にあります。

そこで本学では、経済的に困窮している学生に対して、大学独自に「緊急学生支援金制度」を立ち上げ、一人当たり3万円の給付を行いました。また、学生個人のオンライン学習やコミュニケーションに必要な通信環境の整備支援も行っています。さらに本学の災害用備蓄食料や学内で生産した野菜などを中心とした生活物資の直接的な提供を通じて、感染症の鎮静化までの間、学生の生活を支えているところであります。

これまでの学生に対する経済支援、学習環境整備、生活支援に関しては、学内の経費削減等により財源を捻出してまいりましたが、それにも限界があります。今後の感染予防対策が長期化する見通しであることや、第2波、第3波の襲来も懸念されることから、本学学生へのより一層の支援を、安定的に継続して行うための財源の確保が必要だと考えております。

今回、本学ではその財源として、様々な分野での支援ができる「高知大学さきがけ志金」を活用することと致しました。この「高知大学さきがけ志金」には、これまで多くの皆様からご寄付を賜ってまいりましたが、今回の新型コロナウイルス対応に伴う学生への支援に対しまして、一層のお力添えを賜りたく、ここに緊急の募金をお願いする次第です。学生、教職員みんなで力を合わせてこの難局を乗り越えられますように、皆様の温かいご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援
(高知大学さきがけ志金の募集) について

趣 意 書

平素より、本学の活動に対しまして格別なるご支援やご助言を賜り誠にありがとうございます。

本学では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、学生の安全を守り学業の継続を図るため様々な支援策を講じてきました。

既に、学生の教育研究活動を維持するための緊急対策の一環として、経済的に困窮している学生に対しては、大学独自に立ち上げた「緊急学生支援金制度」により一人当たり3万円の給付を行い、また、遠隔講義受講のための環境が整っていない学生に対しては、通信環境の整備支援等も行ってきたところです。

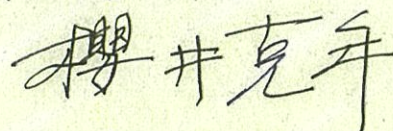
学生に対するさまざまな支援に関わる経費につきましては、当初、学内の経費削減等により財源を捻出しておりましたが、それにも限界があり、6月には、大学のホームページ等で「新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援（高知大学さきがけ志金の募集）」をお知らせのうえ、広く学外の方々にもご協力をお願いさせていただきました。

おかげさまで、これまで多くの皆様方から温かいご厚情を賜っておりますが、新型コロナウイルスの新規感染者数が全国各地で最多記録を更新するなど、再度の感染拡大が伺われる状況にあることから、今後さらに学生支援を強化していくため、再度、募金のお願いをさせていただく次第です。

皆様におかれましては、上記の趣意にご賛同いただき、ご支援ご協力を賜りたく、ここに謹んでお願い申し上げます。

令和2年11月20日

国立大学法人高知大学長



国際連携推進センター インターネット研修を通じて高知の知見を世界に発信 ～自国にいながら高知の先進的な取組等について学ぶ海外研修員～

国際連携推進センターでは、国際協力機構(JICA)からの委託を受け、開発途上国から来日した研修員(途上国政府から推薦を受けた中央もしくは地方の行政官、大学教授、民間企業関係者等)を対象に国際研修を実施しています。

研修はこれまで、対面での講義や現地での視察を通じて津波対策などの防災やへき地教育などに関する高知県の優れた知見、技術などを研修員が学ぶ形でしたが、コロナ禍で外国からの来日が難しい中、国際研修の手法も変化させ、令和2年度はインターネットを活用した遠隔実施とし、昨年11～12月にはカリブ海、太平洋、インド洋の島嶼国8カ国を対象とした防災研修を実施。また、本年1～3月にかけては「地域アグリビジネス振興」英語コース(アジア、アフリカ地域5カ国)及びスペイン語コース(中南米、アフリカ地域10カ国)を実施しました。

自国にいながらして高知県の先進的な取組等について学べるのは画期的なことですが、時差や通信環境の違いで進まないうえに、早朝から深夜まで1日中対応に追われ、また、地域アグリビジネス振興の英語研修では、アジア、アフリカ、日本の3地域を同時に繋ぎましたが、参加国の中でも特に通信環境が整っていない南スーダンの研修員は、日頃からメールや携帯を確認する習慣がなく実施時間の直前までほぼ音信不通(ディスカッション当日に開始から少し遅れて彼がZOOMの画面に現れた時には他の参加者から拍手と歓声が上がる)など、苦労もありましたが、研修員たちは、活発な意見交換を通じ、他国の状況を知ることができたことでとても刺

激を受けた様子でした。
今回のインターネット研修を受講した研修員は、令和3年後半～令和4年初頭にかけて来高し、さらに知見を深める予定です。



各国の基本情報などを発表する研修員



ZOOMを使ったオンラインディスカッションの様子

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援(募金)のお願いについて

高知大学では、コロナ禍で大きな影響を受けている学生を支援するため、引き続き、募金のご協力を願っています。

コロナ禍における学生支援に対する寄附状況(令和3年1月末現在)

さきがけ志金:87件 金額3,973,000円 修学支援基金:169件 金額3,886,000円

上記のご寄附の中から、2,109,000円を「コロナ禍における学生の食費等に対する支援事業」として助成し、令和2年度新入生全員に、1人3,000円分の生協利用券(食事や教材等の購入)を配布しました。皆様方からのご支援に心から御礼申し上げます。



学生たちが本学で学び続けることができるよう、大学としても継続的な支援を行ってまいりますので、より一層のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくご願ひ申し上げます。

インターネット決裁サービスによる「クレジットカード決裁」、「コンビニ決裁」、「Pay-easy決裁」がご利用いただけます。

〈お問い合わせ先〉

高知大学総務部総務課 TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738 E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp URL:http://www.kochi-u.ac.jp/

詳しくは、大学のホームページをご覧ください。



「ヘルスケアイノベーションコース」令和3年4月開講!

どんなコース?

医学と工学の連携を通じてヘルスケアに役立つモノやワザを創り出す(イノベーション)人材を育成する大学院修士課程のコース(2年間)です。

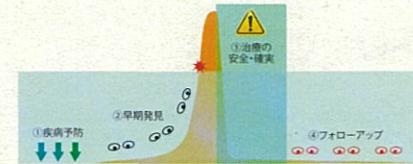
どんな人に役立つ?

ヘルスケアイノベーションに関する内容を学びたいすべての人が対象ですが、なかでも工学に近い診療業務に従事するメディカルスタッフ(診療放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など)やヘルスケア関連で活躍したい工学系の若手に向けています。

なぜ今、このコースが必要?

◇理由1:新たな課題に自ら解決策を出す必要性
高知県には高齢化、人口減少という課題がありますが、大震災の脅威や豪雨、新型コロナウイルス感染症など想定外の災禍のため、課題はより複雑になっています。例えば、基礎疾患があると自然災害で持病が悪化したり新型コロナウイルスに感染して重症化しやすかったりなどです。調べても、良い解決策は見つかりません。それならば自分たちで創ろうというのがこのコースです。

◇理由2:人と組織の包括的ヘルスケアが必要
ヘルスケアの対象は、「人」と「組織」です。人のヘルスケアは、災禍が来てもそれに耐えられる力を高めるためです。①疾病予防、②早期発見、③治療の安全・確実、④フォローアップのいずれも大切で、一つづつでも耐容性は下がります。高知県の「健康長寿県」構想と方向は同じです。



「組織のヘルスケア」は、進化に伴う縦割り化で起こる不具合に対するケアです。病院組織も、災禍が来たときに機能を落とさない耐容能が必要。具体的には、①病院機能の非効率化(経営を含む)をシステム工学的に診断しメスを入れる、②インシデントなど医療安全の課題に医工連携のワザ、モノで対処する、③蓄積された情報やデータを発掘して新たな活用法(人工知能診断など)を探る、④縦割り構造に横系を通ししっかりした構造を織り上げるということです。

医工連携には「繋ぐ人」が必要

しかし、いざ「医工連携」を進めようとする、①言語の違い、②考え方や方向性の違いという壁に当たります。双方がうまく連携して良いものを産み出すには、両者の専門知識を持って繋ぐことのできる人が必要です。



継続的なイノベーションのために

イノベーションには①「無」から「有」を創り出す、②すでにあるモノやワザを活用する、③シーズを役立つものに育てる、といういろいろあります。コースでは、医療安全、地域医療の課題に対する解決策を創出しながらその能力を育てます。コース修了時の学位は、「総わり」ではなく「スタート」です。そこから後進を指導し、継続的にイノベーションを進めるのです。

Innovative Resource Manager (IRM)の育成

「縦割り」の壁を超えて人を繋ぎ、組織の非効率面や埋蔵リソースを発掘し、医工連携で組織を健康にしていくのが、IRMです。「繋ぐ」ために知識やテクニックは必要ですが、「心のこもった接点」を大切にしながら、縦割り構造に横系を通していきます。



カリキュラムは?

カリキュラムはかなり盛りだくさんで、基礎から応用まで3つの階層となっています(下)。それらをカバーする講師陣として、高知工科大学、高知県立大学、高知工業高等専門学校や他県の大学、さらにグローバル企業やベンチャー起業家、厚労省や経産省の方もコースの趣旨に賛同して加わっていただきました。

階層	内容と目的(一部科目名は略称)
基礎	医学英語:医学で用いる英語を学び、より広く情報を収集、発信するための力をつける 人体形成学・人体機能学:正常な生体の構造と機能を知り、健全なシステムを理解する 病理病態学:病的な状態はなぜ起こり、何が起こり、どうなっていくのかを理解する
基盤	臨床医学総論:疾患をどのように診断、治療するかを学び、研究とは何かを理解する 社会医学:包括的ヘルスケアの対象となる社会や環境などについての理解を深める 医科学における心と倫理:研究、臨床応用における生命の尊厳、医の倫理を学ぶ
高度	医用工学:電気・電子・機械工学の基礎を学び、医療機器の役割とpitfallを理解する 医療統計学:データマイニング:データ解析の基礎を学び、演習で使い方を習得する
高度	医用システムデザイン工学:医療情報システム、インフラ、通信技術などを理解する イノベーション・レギュラトリーサイエンス:イノベーションを取り巻く情勢を学ぶ 医用画像工学:人工知能:基礎から応用まで学び、深層学習を演習ベースで学ぶ アントレプレナーシップ:ベンチャー起業の基本から事例を学び、ピッチを経験する 組織行動マネジメント/リーダーシップ:起業家・病院組織の人間関係を学ぶ
高度	ロジカルシンキング/デザインシンキング:さまざまな思考法を実習をまじえて学ぶ リスクマネジメント/クライシスマネジメント:医療安全、災害、組織の危機管理を学ぶ 地域社会レジリエンス/地域医療エンバロメント:課題を理解し、向かうべき方向を学ぶ

※科目の詳細、正式名称はHPをご覧ください。

HPをご覧ください。

HPを立ち上げました。どうぞお立ち寄りください。
https://www.kochi-ms.ac.jp/~kms/hi/



- ・配付資料 4 枚目
- ・広報誌 Lead 春号 (10 頁) 掲載

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援 (募金) のお願いについて

高知大学では、コロナ禍で大きな影響を受けている学生を支援するため、引き続き、募金のご協力をお願いしています。

コロナ禍における学生支援に対する寄附状況 (令和 3 年 1 月末現在)

さきがけ志金 : 87 件 金額 3,973,000 円 修学支援基金 : 169 件 金額 3,886,000 円

上記のご寄附の中から、2,109,000 円を「コロナ禍における学生の食費等に対する支援事業」として助成し、令和 2 年度新入生全員に、1 人 3,000 円分の生協利用券 (食事や教材等の購入可能) を配布しました。皆様方からのご支援に心から御礼申し上げます。



詳しくは、大学のホームページをご覧ください

二次元バーコード

学生たちが本学で学び続けることができるよう、大学としても継続的な支援を行ってまいりますので、より一層のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy 決済」がご利用いただけます。

<お問い合わせ先>高知大学総務部総務課

TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738

E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp URL:http://www.kochi-u.ac.jp/

【参考】 第 10 回さきがけ志金事業推進専門部会 (令和 2 年 11 月 19 日開催)

学生総合支援センターから、「コロナ禍における学生の食費等に対する支援事業」経費の一部を、さきがけ志金から助成願いたい旨の申請がされた。

本件は、支援事業経費総額 3,309,000 円のうち、独立行政法人日本学生支援機構が行う「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」1,200,000 円交付決定からの助成額を差し引いた 2,109,000 円をさきがけ志金から助成し、令和 2 年度新入生全員に、1 人 3,000 円分の生協利用券 (食事や教材等の購入可能) を配布した。

「コロナ禍における学生の食費等に対する支援事業」

総額 3,309,000 円

(内訳)

日本学生支援機構から助成額 1,200,000 円 (400 人 申請限度額)

さきがけ志金への助成申請額 2,109,000 円 (703 人)

合計 3,309,000 円 @3,000×1,103 人 (新入生)

(新入生全員の理由)

入学式の中止及び対面授業が実施されずにキャンパスに殆ど来られなかった新入生にとって、実質的に大学生生活のスタートとなるこの時期の支援をするため、食事や教材等の購入ができる生協利用券を全員に配布する。

- ・生協利用券の配布時期 12月21日
- ・生協利用券の配布方法 生協加入者には、学生証への生協電子マネー入金登録 (@3,000 円×588 人)
生協未加入者には、生協利用券を郵送 (@3,000 円×115 人)
- ・生協利用券の有効期限は、卒業年度まで有効。

